

Pan-Report™

発行 ;PanRolling Inc.

年間購読料 63,000 円

無断転用禁止

#1001,Duo , 7-21-3,Nishishinjuku,Sinjuku-ku,Tokyo,Japan,160-0023 〒 160-0023 東京都新宿区西新宿 7-21-3-1001fax03-5386-7393

《日本と原油危機》 1/3

原油

ラリー・ウィリアムズ

原油価格の高騰でガソリンも徐々に値を上げてきている。この状況がどのような影響を日本に与えるの調べてみた。原油の殆どを海外からの輸入に頼っている日本にとって、今後、深刻な経済問題に発展していくのだろうか。トレーダーから見たこの現状分析を簡単にまとめてみた。

原油価格の高騰で日本経済が停滞するのか？

全世界の注目が原油価格に向けられていると言っても過言ではない。日本に限らず、ここ最近の原油価格の上昇が生産コストの引き上げにつながり、最終的には、全世界の景気後退を引き起こすと言う見方が多い。以前のオイルショックの教訓から、日本はエネルギー資源をオイルから他にシフトしたが、それでも、エネルギー資源の6割はオイルと言われている。中東からの原油輸入量は昔に比べて減少している。これは、日本が過去の苦い経験を生かして、発展を続けてきている証拠だろう。

一般的に原油価格の高騰は株式市場の低迷を引き起こすとされ、また、原油輸入国の通貨価値まで下げてしまうと言う説がある。なかには、大不況を予告するレポートまで発表されて、一部のメディアを通して市場参加者に恐怖心を植えつけている。しかし、私の調べでは、これらの意見を否定する結果を得ている。

過去の原油価格変動を調べたところ、日本円、そして、日本株が原油価格変動の影響を強く受けていたとは言えない。

ここでは、過去20年間の日本円の動きと原油価格の変動をグラフ化してみた。上のグラフが日本円の動きで、下がオイル価格を示している。価格のチャート上にトレンドを示すラインを付け加えたが、この20年間の内、原油価格が上昇傾向にあったとき、日本円も上昇していた。5回の内、4回、このような現象がおきている。つまり、原油価格の上昇中は、日本円もその価値を高めている傾向があると言え、一般的に言われているような、原油価格の高騰がオイル輸入国の通貨価値を引き下げると言う傾向はないようだ。このグラフには、1987年からのデータを載せているが、1980年代前半でも、原油価格の上昇は円高を意味していた。

監修／パンローリング

TEL 03-5386-7391

<http://www.panrolling.com/>E-mail info@panrolling.com

Pan-Report™

発行 ;PanRolling Inc.

年間購読料 63,000 円

無断転用禁止

#1001,Duo , 7-21-3,Nishishinjuku,Sinjuku-ku,Tokyo,Japan,160-0023 〒 160-0023 東京都新宿区西新宿 7-21-3-1001fax03-5386-7393

《日本と原油危機》 2/3

原油

ラリー・ウィリアムズ

どうしてなのか？

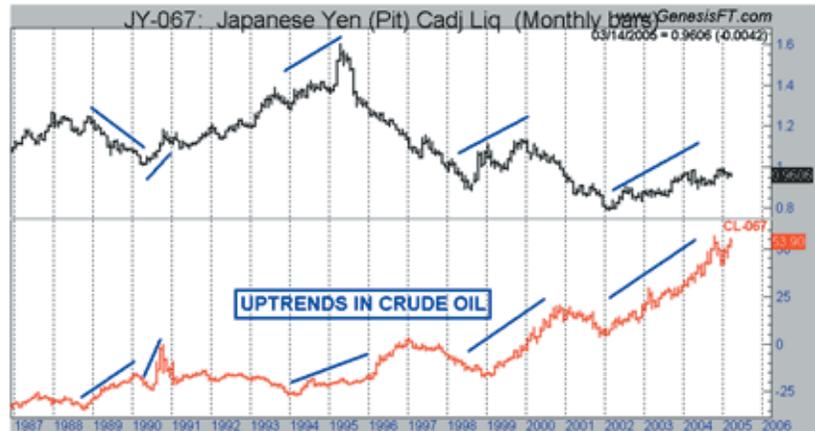
日本のガソリン価格は欧州とほぼ同じで、1ガロンあたり4.20米ドルになっているが、私が住んでいるUSバージン諸島では、たったの1.75米ドルである。このうち、85セントがガソリン税となっている。ガソリン税は、ガソリン購入額に対して一定の比率で課せられているケースが殆どで、ガソリン価格の上昇で、消費者がより多くガソリン税を支払っていることになっている。税収の

向上がその国の通貨を支えているのかもしれない。先のグラフを見る限り、オイル価格が上昇を始めた2002年から日本円もその強さを増してきている。

ある機関 (<http://criepi.denken.or.jp/jp/index.html>) によるとエネルギー価格が50%上昇することで日本のGDPの伸び率が0.2%減速すると言う調査報告を出している。原油価格の高騰が日本経済に与えるダメージは少ないが、それは、他の国にも同じことが言えるとはならない。日本以外の国でオイル価格の変動の影響を強く受ける国が存在している。言い換えると原油価格の上昇のため、ビジネスを日本に移す傾向が強まり、このビジネス移転が日本のGDPを0.3%アップさせると言う報告もある。

原油価格と株式市場

オイル価格の上昇が日本円の価値を引き下げているという分析だが、では、日本株に対してはどのような影響を与えているのだろうか。ここ暫く、メディアを通して、原油価格の高騰から株が売り込まれたと言うコメントを多く目にする。頻繁に、このようなネガティブな記事を読んでいるうちに自然と読者がその記事を鵜呑みにしてしまっているのではないだろうか。そこで、日経平均指数の動きとオイル価格の動きを調べてみた。



(チャート:ジェネシス社、トレーダー・ナビゲーター)

監修／パンローリング

TEL 03-5386-7391

<http://www.panrolling.com/>E-mail info@panrolling.com

Pan-Report™

発行 ;PanRolling Inc.

年間購読料 63,000 円

無断転用禁止

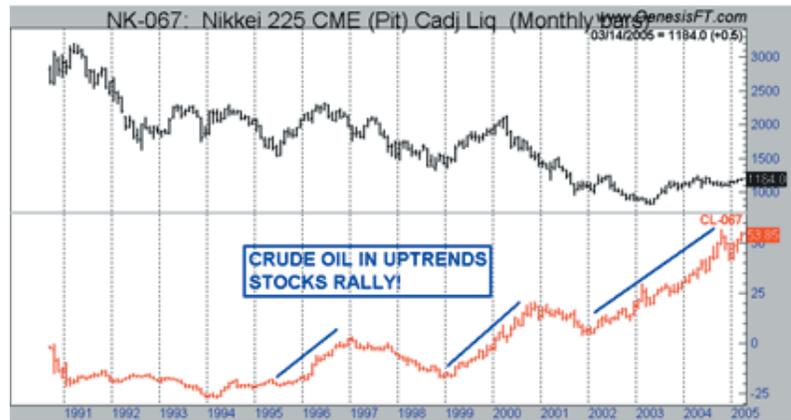
#1001,Duo , 7-21-3,Nishishinjuku,Sinjuku-ku,Tokyo,Japan,160-0023 〒 160-0023 東京都新宿区西新宿 7-21-3-1001fax03-5386-7393

《日本と原油危機》 3/3

原油

ラリー・ウィリアムズ

右のグラフが日経平均で、下が原油価格の動きである。このグラフから言えることは、原油価格が上昇しているときに日経平均指数も上げているということになる。原油価格が下落傾向にあるとき、日経平均指数も下げている。



アメリカ市場では？

先ほどと同じように、米株市場のデータと原油価格を比較してみたが、その結果、原油価格が下落を始めた頃から米株市場も下げ始め

ていた。ここでは、書面のスペース上、グラフは添付しないが、S & P 500 指数平均が大きく下げ始めた2000年から2002年の間は原油価格も下げている。日本市場同様に、米株市場も原油価格の動きと連動している。原油価格の高騰は米株市場にとって悪いニュースとは言えないようだ。

原油価格の先行きは？

今回の調査で原油価格の動向が株式市場の先行きを予想する上で重要と分かったが、では、この先、原油価格はどうなるのだろうか。今までレポートしてきた私なりの分析手法によるとオイル価格は5月中旬と10月に下げる傾向にある。つまり、その時期に、株も下げる傾向にあるといえる。この20年間のデータをもとに、原油価格の季節要因とその傾向、そして、石油関連企業の価格ヘッジの仕方について調査した結果から、5月と10月は原油価格の下落することが予想される。また、CFTCが公表している機関投資家の動向をレポートしたCOTを見る限り、機関投資家が昨年12月から徐々に買い玉を減らしていることが分かる。ちょうど、ゴールデンウィークが終わる頃から原油と株が値を崩す傾向があるので要注意だろう。

監修／パンローリング

TEL 03-5386-7391

<http://www.panrolling.com/>E-mail info@panrolling.com